

⑤ミニ八十八カ所



建設申請を1912(大正元)年に出し、許可が下りるまで3年かかった。四国八十八番までの札所から砂を持ち帰り、それぞれの場所に奉納した。これにより「ミニ八十八カ所」と言われるようになった。発起人は仏像の建立にあたり、浄財集めに寝食を忘れて奔走したという。1988(昭和63)年9月に現在の場所に移った。

⑥十三仏



1978(昭和53)年に黒崎団地の宅地造成が始まった時に工事箇所の峠道にあったものを、信者が一体ずつ背負って運んだという。石仏自体が相当な重量で、実際には数人がかりではなかったらうか。十三仏は諸悪を退治し苦難から救う「不動明王」、病気に苦しむ人々に薬を与える「薬師如来」などからなる。

⑦鬼貫の句碑



「遠干潟 沖は白波 鴨の声」 鬼貫 黒崎公園展望台近くに位置する。上島鬼貫は1661(寛文元)年伊丹の酒造家に生まれた。芭蕉と並ぶ元禄時代の俳人であり、三池藩主立花種明公に仕えた事蹟があり、それを顕彰して1972(昭和47)年12月24日に句碑が建立された。

⑧玉垂神社



玉垂神社は黒崎山の南西に位置し、多良岳や普賢岳を望む展望台の下に鎮座している。昔は黒崎岬、高良大明神や高良玉垂宮等と呼ばれ、久留米高良大社の支社的役割があったと思われる。712(和銅5)年創建と言われ、大牟田・高田の中で一番古いお宮である。過去に2度の大火事での全焼を乗り越え昭和3年に復旧されて現在に至る。

⑨大日神社



祭神は大日如来。825(天長2)年、諸国に疱瘡が流行したため、三池地方の領主・三毛師秀が平定のために建立した。まもなく疱瘡が平定したことから、疱瘡の神様として崇められるようになった。本尊は神仏判然令により、倉永の寺に安置されたと伝えられている。

⑩天満宮・社日社・屋須多宮



大日神社と並んで、建てられている。天満宮は学問の神様。社日社は土の神様で、春は五穀豊穣、秋は収穫を感謝する祭りが行われる。屋須多宮は火災除けの神様で、火事が起きたときに「やすだー！」と叫ぶと火が治まるといわれている。お札を台所に貼る家が多く、12月5日に祭事が行われている。

⑪黒崎ガラガラ



825(天長2)年に疱瘡が流行し、平癒のために大日神社が建てられた。その土産物として黒崎ガラガラは作られた。紅白に色づけた赤貝を左右に3個ずつ刺してあり、病魔を振り払うと人気があった。黒崎山展望台の矢頭が黒崎ガラガラを模したものになっている。

⑫黒崎の大楠



玉垂神社の楠は大牟田市としては最も大きく、高さ27m、根回り6.25m、幹回り4mあまりで、樹齢は300年以上と推定され、市の天然記念物。神社などで神木として崇められており、風雪にさらされながらも玉垂神社や人々を守り続けている。

⑬黒崎灯台(大牟田信号灯台)



奥に写っているのが「信号灯台」



観世音堂の前に灯台の脚の跡らしき物が...



黒崎にあった信号灯台

「灯台」と言うと船舶の航行目標となる施設を想像するが、黒崎にあった灯台は正式名称を「大牟田信号灯台」といい、電波塔であった。黒崎観世音塚古墳の上であり、そのあたりは国有地であったが、後に私有地となったと思われる。灯台の高さは16メートル。電波塔があったため、手鎌地区は電波の入りがいい土地だったと言われている。現在は灯台の脚らしき跡を見ることができる。

講座受講生の皆さん

(敬称略・50音順)



磯野 伊奈 井上 井上 内野 江寺 柿原
憲治 寿徳 光崇 照代 良隆 圭二 千鶴

幸喜 幸田 坂口 末藤 田畑 田畑 堤
盛次 義勝 優美 順子 友三 清香 範昭

徳永 中島 藤井 前川 松藤 山本 山本
栄嗣 康弘 チヨ子 光昭 秋臣 憲士 静雄



【編集・発行】

手鎌地区公民館

大牟田市手鎌1300-42

TEL. 0944-56-6008

FAX. 0944-56-6824